

## 令和5年度 第2回 浜松市立瑞穂小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和5年7月6日（木） 14時30分～16時30分
- 2 開催場所 瑞穂小学校 会議室
- 3 出席委員 伊藤 雅文、佐々木 美香、村松 幸男、清水 淳子、伊藤 文雄  
稲見 正隆、藤原 四郎（学校支援コーディネーター）  
鈴木 里佳（学校支援コーディネーター）
- 4 欠席委員 石野 和彦
- 5 オブザーバー 佐藤 拓男（北部協働センター）
- 6 学 校 柳瀬 美穂（校長）、木下 栄二（教頭）、中西 伸（CS担当教職員）  
片山 里紗（CSディレクター）
- 7 教育委員会 欠席
- 8 傍聴者 なし
- 9 協議事項  
（1）議長の選出について  
（2）学校経営方針と子供たちの姿について  
（3）学校運営に必要な支援について
- 10 会議録作成者 CSディレクター 片山 里紗

### 11 会議記録

司会の教頭から、委員総数9人のうち8人の出席があり過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

その後、委員の方たちには、3年生から6年生の授業の様子を参観していただいた。

#### （1）議長の選出について

議長の選出について委員に意見を求めたところ、伊藤会長より藤原委員を推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを承認した。

#### （2）学校経営方針と子供たちの姿について

議長の指示により、参観していただいた様子を含め、委員の方からは以下の発言があった。

◆子供たちが落ち着いて授業を受けていると感じた。班ごとに机を向かい合わせて活動をしていて、とても楽しそうに過ごしていた。今後このような活動が増えていけば学校をもっと楽しく感じられるのではないか。給食の時間はどのように過ごしているのか？（佐々木副会長）

◇給食中のおしゃべりはできるようになりだいぶ賑やかになったが、机は各自前向きで食事している。2学期からは班を作って食事していくことを考えている。しかし今も

まだ一部ではあるが子どもの中にはマスクが外せないでいる子もいるため、各々に配慮が必要である。(校長)

- ◆1クラスの子どもの人数が多く、大変そうに感じた。家庭科の授業を参観したが、裁縫に不慣れな子どもが多いのもっと裁縫を教えられる支援者の数が必要なのではないか。(清水委員)
- ◆参観の際、教室のドアを開けてくれた子どもがいて、嬉しい気持ちになった。ボランティアに参加しているため、顔見知りの子どものができ「元気でやっているかな」という気持ちが募った。(村松委員)
- ◆子供たちが楽しそうに過ごしている姿が見られた。元気な挨拶ができる子どもが多く気持ちが良かった。(稲見委員)
- ◆ボランティア参加により長い期間子どもたちを見てきたので、成長を感じた。家庭科の授業では針に糸を通せない子が多く、親から裁縫を教えられていない子が多いことに親子間の交流の少なさを感じた。家庭でできないことを周囲の人が支援していく機会がもっと必要だろう。(伊藤文雄委員)
- ◇家庭科の裁縫のようなリアルな体験や、タブレットなどを使用した二次元の力の両方をバランス良く取り入れていくことが必要である。学校ではそれぞれの力を育むために、その両方を授業に取り入れていきたい。(校長)
  
- ◆家庭で裁縫をする機会が少なくなっていると思うので、事前に学校から保護者へ授業内容のお知らせがあれば、家庭で子どもに教えられるきっかけになるのではないかと。  
運動会の競技内容に関して、年々競技時間や競技内容が縮小されているが、個人競技が多くなり団体競技が少なくなっていると感じる。チームで1つのことをやり遂げる体験は子どもにとって良い経験、成長になると思う。(鈴木里佳委員)
- ◇子ども1人1人の進捗や個別に沿った対応が難しい場面では、地域の方に支援いただいたり、タブレットを使用することもある。例えば、テストが終わった子からタブレットの中のドリルパークというドリルを行っている。(校長)  
ドリルパークには、子どもそれぞれのレベルに合わせた問題などを出題するシステムがあり、生徒1人1人の進捗に合わせた個別対応への取り組みの1つになっている。  
(CS担当教職員 中西)

### (3) 学校運営に必要な支援について

藤原議長より別紙資料に基づき、本校のボランティア活動の花の会について現状報告があった。

昨年度まで保護者対象だった花の会のボランティアを今年度から地域へも枠を広げたところ、多くの方に御登録いただいた。作業時間が短くなったり、水やりのスケジュールにも余裕ができたりした。

校長より2学期の教育活動において、地域の方の支援が必要な場面について説明があった。

- ◆長期休みが終わる時に課題が終わっていない子が多かった時があったが、誰かが横についてくれば進められる。そういった学習面の支援ができる機会があると良いと思う。(清水委員)
- ◆手芸ボランティア、地区社協でも呼びかけることができるので、事前にいつ、何人必要かの具体的な連絡があれば支援しやすい。(伊藤雅文会長)(清水委員)
- ◇家庭科のミシンの支援ボランティアを募りたい。保護者だけでなく、地域の方にも支援いただきたい。(校長)
  
- ◆図書ボランティアでは、仕事をしている保護者も多く、なかなか人数が集まらない。保護者以外でもお手伝いできる方や、読み聞かせのコツなどアドバイスをいただける方がいると助かる。(鈴木里佳委員)

#### その他報告事項等

司会の教頭より、次回の協議会は10月5日(木)14:30から会議室で開催する旨、説明があった。また、次回の議長について、鈴木里佳委員を推挙したい旨の発言があり、全員異議なくこれを承認した。

以上